

社会の連帯を考えるシンポジウム

賀川豊彦が救貧活動始めて100年



社会運動家の賀川豊彦（1888～1960）の写真が神戸で救貧活動を始めて100年を迎える節目の今年に、阪神大震災でのボランティア活動を振り返り、社会の連帯のあり方を考えるシンポジウム「神戸から地球へ 共に生きるために」が13日午後1時半～5時半、神戸市中央区下山手通4丁目の県公館で開かれる。

賀川豊彦は神戸市生まれ。1909年から現在の神戸市中央区に住み込んで貧しい人々の救済にあたり、23年の関東大震災でも被災者の救援にあたった。労働運動や生活協同組合活動、平和運動に先駆的に取り組み、後年は徴兵制廃止や核兵器反対運動にも身を投じた。

シンポジウムは、アジアの難民

震災ボランティア振り返る 神戸で13日

や被災者らを支援する「アジアボランティアセンター」（大阪市）などが主催。国内のボランティア活動の原点となった賀川の業績や、震災後に大きく広がった市民活動を振り返り、国際的な連帯についても考える機会にしたいという。

シンポジウムでは、貝原俊民・前知事が「阪神・淡路大震災と『賀川精神』」と題して基調講演。「社会運動の国際的連帯」をテーマに、タイのスラムで救済活動をするドワン・プラティープ財団理事長のプラティープ・ウンソンタム・秦さん、国際看護師協会会長で近大姫路大学長の南裕子さんが討論する。

入場無料で定員350人。当日参加も可能だが、できるだけ事前予約を。氏名、所属、ファクス番号、携帯電話番号を記入し、10日までにファクス（078・371・3550）かメール（office@core100.net）で申し込む。

問い合わせは神戸プロジェクト実行委員会事務局（078・371・3550）へ。